

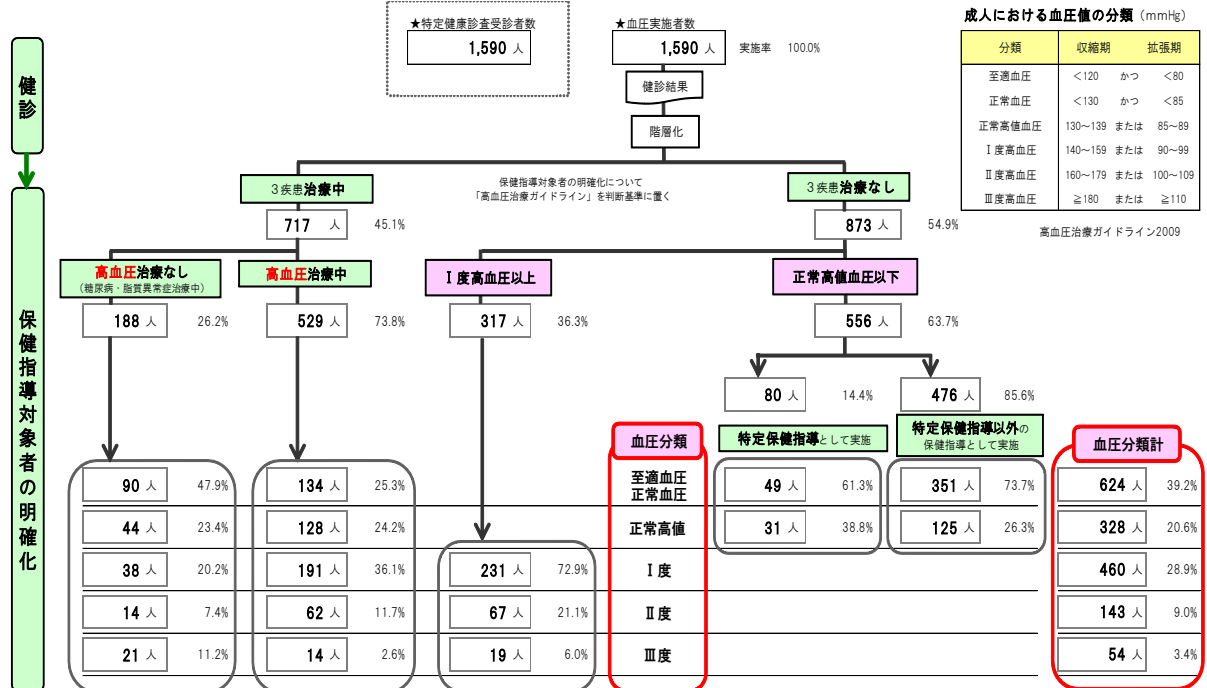
(2) 循環器疾患

脳血管疾患と心疾患を含む循環器疾患は、がんと共に日本人の主要死因の大きな一角を占めています。循環器疾患の予防は基本的には危険因子の管理であり、確立した危険因子としては、高血圧、脂質異常症、喫煙、糖尿病の4つです。循環器疾患の予防はこれらの危険因子の管理が中心となるため、これらのそれぞれについて改善を図っていく必要があります。

● 健診結果からみた高血圧の状況

図15 高血圧フローチャート ～医療費改革の目標達成に向けて～

平成23年度健診データ（法定報告数とは異なる）



血圧分類Ⅲ度の重症者は54人あり、その割合は県内第1位です。さらに、高血圧治療中であるが血圧コントロールの不良な者、また、I度高血圧以上の治療していない者が多いことがわかります。収縮期血圧の有所見者(130 mmHg以上)をみると、男性の67.3%、女性の53.5%が有所見者に該当しています。また、性別年代別でみると、男女ともに年代が高くなるにつれ、有所見者の割合が増加傾向となっています。特に男性60歳以上において、7割以上が有所見者です。

高血圧症は、自覚症状がないこと、日々、時間によっても変動があることが、高血圧であることを認識し早期の治療や生活改善に結びつかない要因になっています。高血圧の他臓器への影響はもちろん、正しい血圧測定の方法や値の基準について普及することが必要です。

平成22年国民健康・栄養調査による食塩摂取量では、男性は12.3g(県内第4位)、女性は10.7g(県内第10位)であり、特に男性の食塩摂取量は多い状況にあります。食塩の摂取過多は高血圧症の要因のひとつであり、食塩摂取量の減少は重要な課題といえます。

高血圧症は、脳血管疾患や虚血性心疾患などあらゆる循環器疾患の危険因子です。高血圧の改善を指標として掲げ、必要な保健指導、医療との連携を行っていきます。

● 健診結果からみた脂質異常症（高LDLコレステロール血症）の状況

図16 【男性】LDLフローチャート ～医療制度改革の目標達成に向けて～

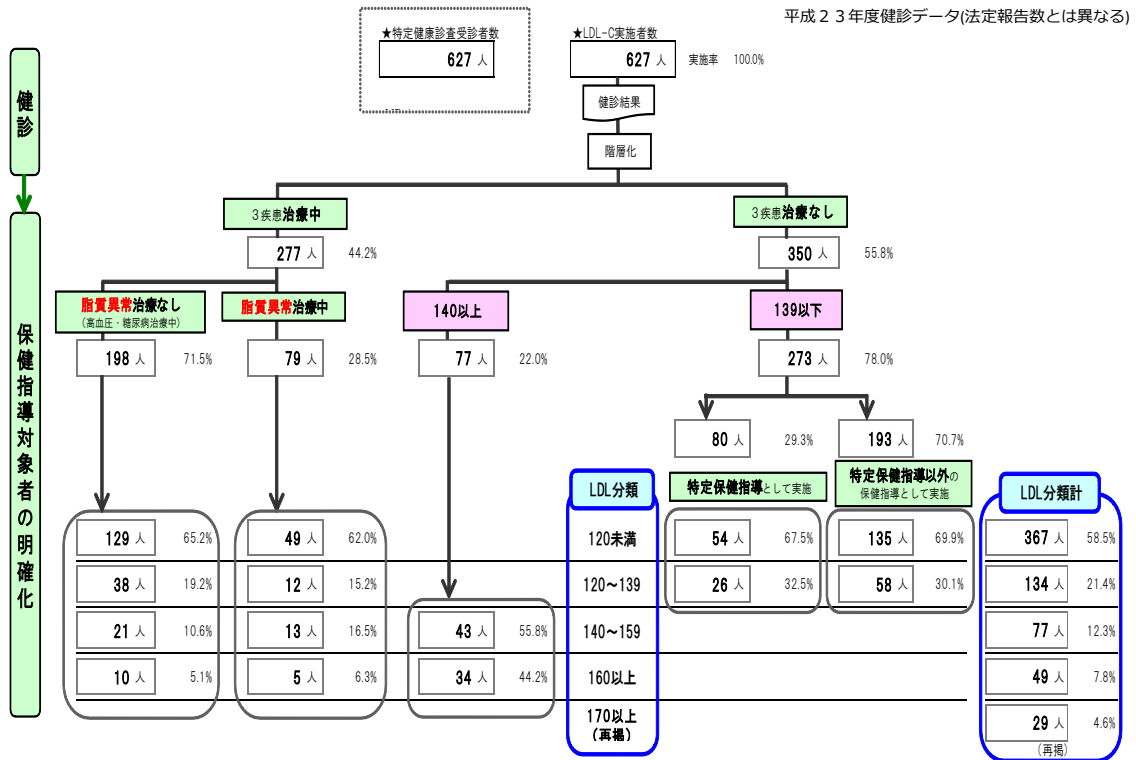
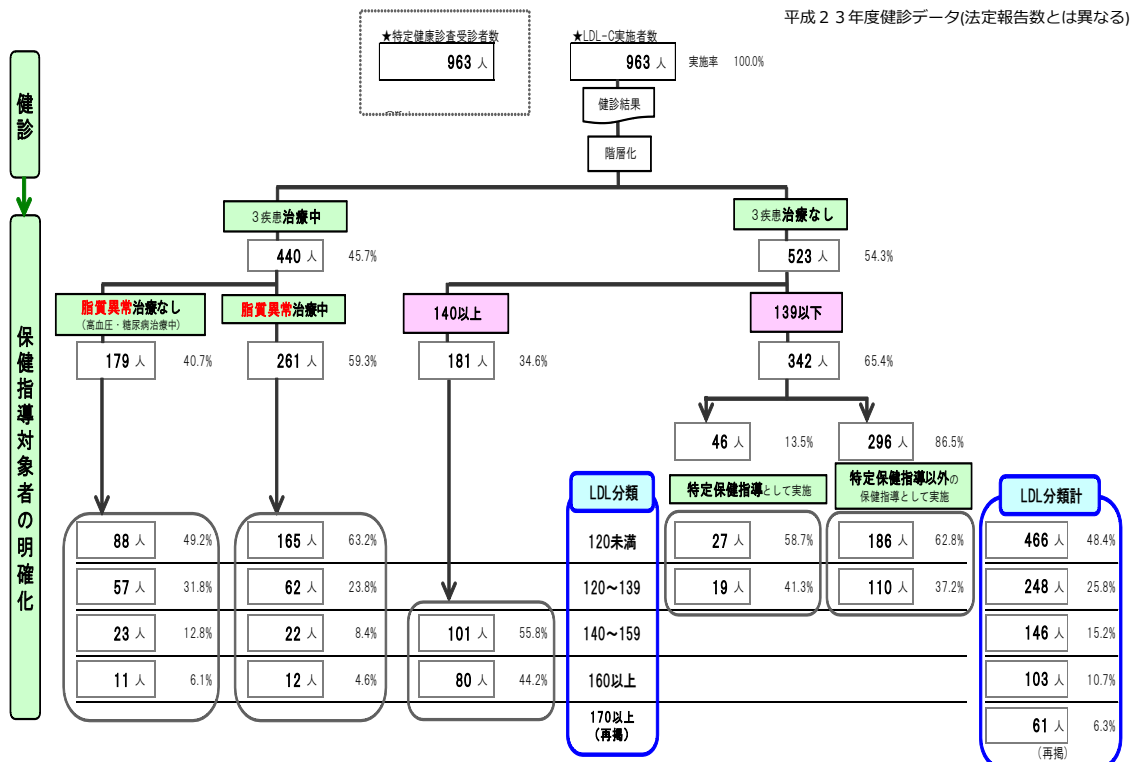


図17 【女性】LDLフローチャート ～医療制度改革の目標達成に向けて～



平成23年度の特定健診受診者のLDLコレステロールの有所見者（140mg/dl以上）をみると、男性の41.4%、女性の52.2%が有所見者に該当しています。

性別年代別でみると、男性は40歳代、女性は50歳代、60歳代で有所見者の割合が高くなっています。特に女性50歳代、60歳代において、約6割が有所見者に該当しています。平成20年度から平成23年度のLDLコレステロールの推移をみると、男女ともに有所見者の割合が減少しています。

LDL高値者、ならびに心電図、眼底検査、腎機能などの結果が異常値のハイリスクに該当する者に対し、必要な保健指導を行うとともに、治療継続が図られるよう支援し医療と連携していく必要があります。

●疫学データからみた高コレステロール血症の問題

脂質異常症は虚血性心疾患の危険因子であり、特に総コレステロールおよびLDLコレステロールの高値は日米欧いずれの診療ガイドラインでも、脂質異常症の各検査項目の中で最も重要な指標とされています。日本人を対象とした疫学研究でも、虚血性心疾患の発症・死亡リスクが明らかに上昇するのは総コレステロール値240mg/dl以上あるいはLDLコレステロール160mg/dl以上からが多くなっています。

特に男性は、女性に比べてリスクが高いことから、LDLコレステロール高値者については、心血管リスクの評価を行うことが、その方の健康寿命を守ることになります。このリスク評価（22ページ図18）を行うにあたり、血圧値、血糖値、喫煙の有無とともに、総コレステロール値についても特定健診で数値をみていく必要があります。

●事例 【Cさん】62歳代、女性、三世代同居。

特定健診にてLDLコレステロール195mg/dl 無治療。孫の世話と家事が毎日の仕事。コレステロール値が高いことは知っていた。

結果説明と保健指導にて、「コレステロールってこんなもんに多いんや。」「じゃこはからだにいいと思って毎日食べとった。」「孫と一緒に自分もおやつも食べとるな〜。」「お弁当作らんなんし、毎日卵焼きしとるな。」

食事内容を振り返り、自分と家族の健康を考えることができた。

●事例 【Dさん】65歳 女性、三世代同居。

高血圧内服治療中、健診も毎年受診。腎機能についてeGFR値が年々低下。40になった。定期的に受診し、降圧剤の内服もしているが、自分が腎臓の機能が低下してきていると思っていなかった。

健診を毎年受け、結果の説明を受けることで、その変化と程度が分かり、主治医とも相談。人工透析に至らないよう腎専門医にかかることになった。保健指導で聞いた食事や生活における腎臓の負担を軽くする生活を心掛け、透析にならないようにしていきたいと思う。

図18 冠動脈10年死亡率：日本男性、日本女性

